

札幌社保協 FAXニュース

2012年 2月29日(水)
社保協事務局 発行
Tel 823-0867 Fax 821-3701
E-mail: s-syaho@kin-ikyo.or.jp
http://www.sapporo-syahokyo.jp/

国保・介護・後期
高齢者医療110番は
3月29日(木)です

姉妹孤独死を 考えるシンポ

生活保護行政の改善を

再建された白石区社保協の主催で「白石区姉妹孤独死を考える2.26緊急シンポジウム」が、2月26日午前菊水ビルで開催され、地元白石をはじめ各区から80人余が参加しました。

保護行政の責任と現場の実態

シンポジストの伊藤りち子市議は、①姉に保護の説明だけで返しているのは追いつきではないのか、②申請の意思確認が行われていないのではないか、③相談に行っても保護を受けられなかった人の実態調査、④ライフラインの停止中止と、滞納督促だけでなく実情を聞くこと、⑤障害者の部局との連携、などを議会で代表質問したと紹介。

道生連佐藤事務局長は、生活保護法の基本に触れながら、この姉妹が明らかに困窮していたことを認めながら、保護課が申請させていないのは、保護申請権の侵害に当たる、と述べました。

元保護課ケースワーカーの梁川さんは、相談記録は管理職も目を通すこと、生活保護課の職員は福祉の専門職ではなく短期間で異動し、経験ある人が少ないことなどを述べました

参加者からも活発な質問や意見～関心の高さを示す

参加者からは、◆保護申請の実態をチェックできないのか、◆厚労省から出ている一関係部局との連携強化への通知を守れば、このようなことは起きなかったのではないか、◆25年前の白石での母親餓死事件を思い起こすなどの質問や意見が出され、市民の監視やオンブズマン制度の活用、タテ割り行政の改善、腰を据えたケースワーカーの育成などがシンポジストからも提起されました。

その他にも次々と感想や意見が出され、予定時間を過ぎるほどの関心の高さを示した集会となりました。閉会あいさつに立った児玉白石社保協代表委員は「生活保護の実際が今日のシンポで明らかになった。参加者一同が、憲法で保障された権利を守っていくために運動をしていこう」と呼びかけました。



東区守る会 東区社保協

生活保護について話し合い



保護課に要請する守る会・社保協

東区守る会・東区社保協は2/27、東区保護課へ12月の申し入れ時の継続だった●就労指導・転居指導のあり方について、行きすぎと思われる事例について改善を要請。保護1課課長と係長が対応しました。

白石区の姉妹孤立死事件については、対応は検討中としたものの東区でも自分たちの問題として考えていると述べました。一方で、窮迫状態については「入院が必要な状態」、白石の問題では妹さんが障害者であったことから、「障害者部局との連携が悪かった」ことが課題との認識を示しました。

地域の幅広い要求で運動

西区社保協総会

西区社保協の総会が2/28に開催され、加入団体から30人が参加しました。はじめに「社会保障と税の一体改革」について斉藤札幌社保協事務局長の記念講演で学習しました。

総会では事務局長の議案提起を受けて、静和会労組、新婦人、守る会、年金者組合、勤医協西区病院、共産党、地区労連西手稲協議会などがそれぞれの活動を報告しました。

新役員では創立以来会の本間徹夫会長が顧問となり、横山博子勤医協西社員支部長が新会長となりました。

